



自分たちの地域は自分たちで守る！

この一年を振り返ると「災害」という文字の絶えない年でした。戦後最大の被害が出た3月11日の東日本大震災。多くの犠牲者の中に、253人の消防団員も含まれています。そしてそのほとんどが、災害発生直後、避難誘導等の公務中の被災とみられています。愛する地域を守るため、仕事をもちながら防犯や火災防止に務め、もしものときにはそれに対処する「消防団」。地域を守るチカラである、町の消防団を紹介します。

三芳の消防団

「消防団」という組織は、市町村の消防機関です。しかし、2市1町（三芳町・富士見市・ふじみ野市）で構成する常

備消防「東入間地区消防組合」とは違い、消防団を構成する消防団員は、普段は別の仕事をしている人がほとんどです。消防団員は自治体の特別職ではあるものの、「自らの地域は自らで

守る」という郷土愛護の精神に基づいて活動しています。町には、地区ごとに5つの分団が存在しています。（下図）一分団およそ15人程で構成されており、自分の地区はもちろん、町内の他の地区や近隣市にも出動します。火災現場に、より近い場所から出動できるという利点を生かし、消防署員よりも早く現場に着くと、初期消火や現場の把握、交通整理などを率先して行っています。



町の消防団区割り図

地域を守るチカラ

非常備消防組織 三芳町消防団

災害への対応

消防団には、災害発生初期段階においての即応能力が期待されています。消防団の特性として、

- 地域密着性
- 要員動員力
- 即時対応力

三芳町で予想されている大きな地震には「東京湾北部地震」（町内最大震度6強）、次いで「立川断層地震」（同6弱）があります。このような大地震が起った場合、最も大きな被害原因となり得るのは「家屋の倒壊」と「火災」です。1995年に発生した阪神淡路大震災。この震災では、7,500棟以上の住宅が火災による被害を受けています。このような場面では、どれだ

訓練と活動

地域防災の中核として、様々な場面で研修や訓練を受け、活動している消防団員。毎年7月、富士見市にある消防訓練場で開催される「消防操法大会」も、そのひとつです。

この大会は、入間東部消防組合管轄の2市1町の消防団23分団が一堂に会し、消火のための

主な消防団の活動

- 1月 消防出初式
- 3月 春季火災予防運動
- 7月 入間東部支部消防操法大会
- 8月 入間東部地区合同防災訓練
- 9月 消防署消防団合同総合防衛訓練
- 11月 秋季火災予防運動
- 12月 消防特別点検 歳末特別警戒

現状と「これから」

日々訓練を重ね、町を守っている消防団員ですが、全国的なデータを見ると、その「今」と「未来」が見えてきます。

たとえば、団員の高齢化です。全国の団員の平均年齢は38・8歳（平成22年）。三芳町は34・5歳（平成23年4月現在）と、全国平均よりも4・3歳若いですが、昭和60年の全国平均が34・5歳だったことを考えると、三芳町でも今後高齢化していくことが懸念されます。団員数についても減少傾向が見られます。昭和30年代、全国に200万人いた消防団員は、



訓練の様子（消防団訓練）

現在80万人にまで減少しました。三芳町でも、定員88人に対し団員数78人と、定員を割っている状況です。

また、かつては自営業者や農林漁業者が多くを占めていた消防団員も、現在では被雇用者（勤め人）が全体の約7割。ただし、町の消防団では約3割となっており、町ではまだまだ自営業や農業従事者が消防団を支えていることがわかります。

三芳町の消防団活動は、全国と比べると全体的に余裕があるようにも見えます。しかし、町外に職場をもつ世帯の増加が目立つ第5分団地区（竹間沢・みよし台地区）では、既に新しい団員をみつけることが難しくなっています。

三芳町消防団ラッパ隊

ラッパ隊は、吹奏活動を通じて消防団員の士気と規律を高め、消防精神の高揚とともに住民との融和を図り、消防業務の推進に寄与するため平成16年に結成されました。

出初式、消防操法大会、特別点検をはじめとする公式訓練の開会式等で演奏を行っています。



こんな活動も！